

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

藤田 泰一



日本国際学園大学

JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

教育の責任

1. 何を担当しているのか

2024年度の担当科目としては、主として現代ビジネスモデル（旧ビジネスマネジメントコース）の経営に関する基礎並びに専門科目と進路支援に関する業界研究科目などを担当しています。

2. 担当科目

科目名	対象 学年	受講 人数※	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
中小企業論(起業論)	3-4	18	講・演	選択	専門基礎科目群(経営学専攻)
人的資源管理論	3~4	17	講義	選択	専門基礎科目群(経営学専攻)
業界研究1	2-4	4	講・演	必修	進路支援科目群キャリア形成科目
業界研究2	2-4	4	講義	必修	進路支援科目群キャリア形成科目
経営行動科学・経営分析2	2-4	13	講義	選択	専門基礎科目群(経営学専攻)
経営分析1・経営分析	2-4	9	講・演	選択	専門基礎科目群(経営学専攻)
経営の基礎・経営学入門	2-4	29	講義	選択	総合教養科目群(教養科目)
プレゼンテーション	2-4	11	演・講	必修	専門基礎科目群(共通科目)

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

教育の理念

1. 社会人としての基本的な生き方を理解し、個性を発揮できる学生の育成

履修生は大学内においては教員や仲間から専門知識などを吸収し、自らも将来のために様々な分野の学問を学ぶ学生ですが、広く社会の中においては社会人の一員として生活をしています。また、卒業後は基本的に職業を有する社会人になる人が大半です。

私の教育理念としては、まず学生といえども社会の一員を構成する人間であることを意識し、社会人としての基本的なマナーや知識を理解し、それを守る生き方を身に着けるような教育を行います。

次に、学生一人ひとりの個性を大切にし、大学時代に自分の個性や強み、弱みを自ら発見して卒業後その個性を発揮できるような人間作りを目指したいと考えています。

2. 学生にチャレンジと自信を持たせる授業を目標とします

大学生という時代は将来への希望や自信を有するとともに、一方で若さゆえに失敗や不安を恐れる複雑な精神構造が入り混じった年代といえます。

授業では、できる限り教員と学生、学生同士とのコミュニケーションの場をとるようにします。自分の意見をいうことは、自分で考えることでもあります。意見をいうことはまた本人にとって大きな勇気が必要であり、チャレンジでもあると考えます。

このチャレンジが場合によっては成功するときもあれば、失敗したと思う時もあると思います。そして、成功した時は自信になり、失敗したときは自信を失うかもしれませんが、授業においてはもしチャレンジが失敗しても教員がフォローし、また学生同士で一緒に考えながらその原因を理解していく経験が必要だと思います。

学生時代にこのような経験を積み重ねることにより本人は多角的視点から物事の本質を理解することができ、卒業後に社会に出てから様々なケースに遭遇した時に自信を持って考える生き方を身に着ける一歩になると考えます。

教育の方法

1. 学生とコミュニケーションをとり、考えさせる授業の取入れます

現在の学生にとって 105 分間を一日数科目ひたすら教員の講義のみを聞くことという行為はかなりの重圧といえます。

このため、教員からのワンウェイ講義の重圧から気分転換をするために学生が自ら考え、参加させるためのコーナーを設置します。具体的には授業に関連したクイズ形式の取入れ、経営コンサルタントでもある教員自身の様々な経験の話、また時々刻々の話題をテーマとしたコミュニケーションの場の準備をします。

コミュニケーション方法としては、基本的に話し合いとしますが、話すことが苦手な学生もいるため状況によってはチャットなど IT を活用した方法も採用します。

2. 理論に関連したケーススタディを取り入れます

大学の授業として各科目の基礎知識を習得するために過去から現在までの様々な理論を学ぶことは極めて重要です。しかし、特に経営学分野においては理論の現場への応用が求められ、学生も単に理論だけでなくその理論がどのようにして現実的に企業経営の中でどのように実践されているかというケーススタディに興味を持っています。

授業においては、基礎的な理論を学ぶとともに、この応用としてのケーススタディも取り入れた内容を目指しています。

3. テキストは可能な限り教員作成のものを使用します

授業における教科書（テキスト）は基本的に使用せず、可能な限り教員が自ら習得した知識、経験等を基にしたその時々潮流や課題も含めた内容をベースとしてパワーポイント等を作成して実施します。

教育の成果および今後の方向性

主として授業アンケート結果に基づいた「授業改善報告書」において成果と今後の方向性について報告する方法とします。